5/22 第6回水辺活用協議会開催

5月22日墨田区役所にて、通算6回目の北十間川水辺活用協議会（以下、協議会）を開催しました。当日は協議会の年間活動計画や実施予定のイベント、東武鉄道株式会社および浅草・とうきょうスカイツリー駅間高架下開発計画出展者共同体（以下、共同体）の河川占用における活動計画、鉄道橋への歩道橋設置についての協議が行われ、承認事項はすべて承認されました。

今年度は、協議会、下部組織としての管理運営部会および賑わい創出部会を各3回の活動を予定しています。管理運営部会では、事例視察などを通して協議会の役割や水辺の利用ルール、管理運営の参画方針を確定する予定です。また賑わい創出部会では、今年度実施予定のイベント検討を通して、協議会が取り組むべきアクションや実施体制を検討し、アクションプラン(案)をとりまとめる予定です。

会員からは、賑わい創出の案として、枕橋から源森橋まで屋台を出店する意見や、エリアネーミング、共同体のメンバーなどに関する意見がありました。

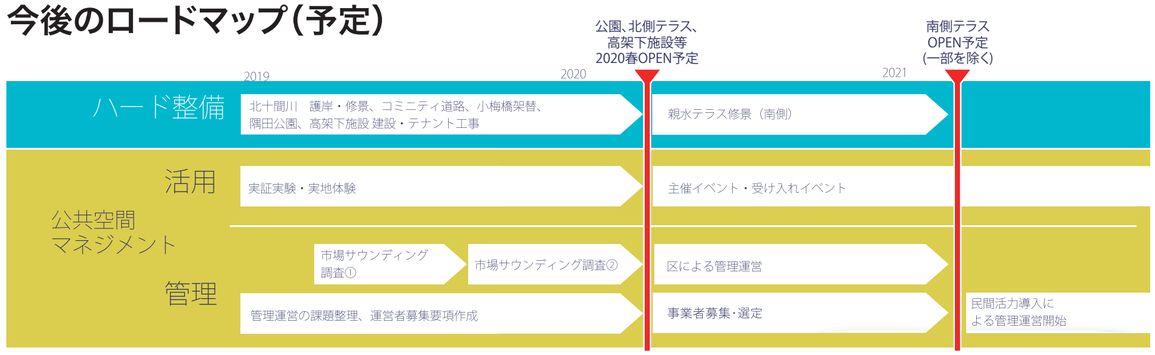
協議会は、水辺の良好な環境の保全と、恒常的な賑わいの創出により、水辺と周辺地域の活性化を図ることを目的に活動しています。今後も各部会の活動とその共有・意見交換を通して、水辺と周辺地域の活性化を目的とした活動を行っていきます。

7/30 第1回賑わい創出部会開催

7月30日墨田区役所にて、今年度1回目の賑わい創出部会（以下、賑わい部会）を開催しました。昨年度まで水辺とその周辺の利活用または、周辺の賑わい創出に向けた地域の取組みについてワークショップを行ってきました。今年度1回目の賑わい部会では、前半に昨年度の成果としてでてきたターゲットやアイディアなどについて振り返るとともに、現在周辺エリアにおける東京スカイツリーや浅草にどのような観光客が来ているのか、地域にはどのようなユーザーがいるのかなど専門家をゲストに属性の共有を行いました。

後半には、既存のユーザーと適切なターゲットについての位置づけを確認し、求める本当の賑わいについて議論を深めました。会員からは、夜の賑わいとしてナイトエコノミーにも力を入れたほうが良いのではないか、エリアの回遊性やターゲットを考えていくにあたって、まずこのエリアのマップを作成していきたいなど意見がありました。エリアマップについては、昨年度のワークショップから派生し結成されました、還東エリアクラブが主体として製作していくことになりました。

今後のロードマップ（予定）



新しい「居場所」をみんなでつくる

これからのまちづくりは、行政だけで行なっていては、素晴らしいまちは育ちません。そのためには、産官学民連携が必要となります。

2018年度、整備後の利活用・管理運営を検討している協議会のうち賑わい創出部会では、対象者を部会メンバー以外にも広げた、総勢30名を超える参加によるワークショップを3日間、開催しました。行政・町会・商店会・民間事業者・各種団体・その他区内で様々な活動をしている方々などが同じテーブルに座り、それぞれの立場や役割を越えて、未来のイメージについて話し合いました。2019年度からは、活用面では、テーブル上での検討のフェーズから、実証実験・実地体験のフェーズへと移行し、管理面では具体的な課題整理や今後の運営のルールづくりなどに取り組みます。さらに多くの様々なみなさんのご参加を期待しています。

発行元：北十間川水辺活用協議会事務局：

これらの活動に興味がある方、質問、ご意見をお持ちの方は、
墨田区役所 企画経営室 公共施設マネジメント担当(03-5608-1455)までお問い合わせください

北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業の事業紹介サイト
URL　http://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_matidukuri/matizukuri/kasen_kyouryou/KitajukkengawaSumida.html

FACEBOOKページオープン！
日々情報を発信中です！
「すみだ北十間川周辺エリマネ準備チーム」

MIZBERING SUMIDA

KITA JUKKEN GAWA 北十間川プレス PRESS

Vol.1
2019.10.26

2020年春、すみだに新しい「居場所」が生まれる！？

7月7日午後7時7分、隅田公園で150人が一斉に乾杯!!

いままでにない隅田公園の使い方を、多くの人々とともに体感

2019年7月7日に、雨の隅田公園に150人の人々が集まって同時に乾杯を行いました。集まったのは、近隣の町会や商店街をはじめ、墨田区長や区役所の職員、東武鉄道株式会社や東京都、国交省の職員など多彩な面々。呼びかけたのは、「北十間川水辺活用協議会」で、整備が進む北十間川周辺エリアの情報発信や、生まれ変わる隅田公園の新たな使い方を共有するために行われました。

この催しは、「水辺で乾杯！2019」という全国的なキャンペーンに相乗りして行われました。今年は全国で249箇所、12,000人以上の方がこの機会に水辺で乾杯をしました。さらに今回のイベントには、「水辺で乾杯！2019」を主催されている「ミズベリング事務局」の方々も出席しました。

参加した人々からは、「近隣町会の方々と親交を深める機会がそもそもこれまでなかった」や、「今日は雨で足元が悪かったが来年の公園整備完了でどのように公園の使い勝手が向上するのか楽しみだ」など、来年への期待を聞くことができました。

「区としては、地域の皆様をはじめ様々な関係機関の皆様と連携しながら、恒常的な賑わいの創出、地域のさらなる活性化に向けて全力で取り組んでいきます」という山本亨 墨田区長

来年春に迎える、リニューアルラッシュ。隅田公園、北十間川テラス、東武鉄道の高架下と、隅田川をわたり浅草へと結ぶ歩道橋

北十間川周辺エリアでは、隅田公園の再整備が墨田区によって行われています。来年春オープンの予定。そして、北十間川の河川護岸整備と連動したテラスの整備（北側のみ、来年春オープン）や、東武鉄道による高架下の商業施設の開業（来年春）、そして東武鉄道による浅草を結ぶ歩道橋（来年春）など、官民による投資が行われ、まさにこのエリアの変化に際してエリアの魅力をアピールするチャンスを迎えています。

北十間川水辺活用協議会では、このチャンスをどのように活かすのか、これからエリア全体としてできることはなにかを2017年度より議論を重ねてきており、今年度も3回の会合が行われています。

変わる北十間川周辺エリア-整備計画と官民による検討の経緯

枕橋から東京スカイツリータウン方面を望む

北十間川周辺エリアは、今、大きく姿を変えようとしています！

北十間川周辺エリアでは、墨田区・台東区による姉妹区提携や、東京スカイツリータウン®開業を契機とした地域連携が進められてきましたが、2020（令和2）年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、東京を代表する魅力的な「水と緑の空間」が生まれようとしています。隅田川を中心とした「浅草」「東京スカイツリータウン」（ともに年間3,000万人以上が訪れる2大観光拠点）の間に位置する北十間川周辺エリアの特性を活かした恒常的な賑わいの創出に向け、官民がより一層連携を強化し、北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業（以下、「観光回遊路整備事業」）、東武鉄道隅田川橋梁への歩道橋新設（以下、「歩道橋新設」）が今、進められています。

観光回遊路整備事業は、「伝統と先進が出会う水辺と街の賑わい交流軸の創出」を基本コンセプトとし、浅草～東京スカイツリータウン間の東西方向の回遊性を促進し、さらに北十間川周辺エリアに生まれた賑わいを向島地区や両国・本所地区の南北方向にも広げていくことを目的として、墨田区による隅田公園一部改修（芝生広場・舗装広場等の整備）・区道墨22号線のコミュニティ道路化・東京都の耐震護岸工事に合わせた北十間川西側区間（隅田川から東武橋付近まで）の親水テラス（歩行スペース）新設、東武鉄道㈱による鉄道高架下への飲食等店舗整備を官民連携で一体的に進めるものです。さらに、観光回遊路整備事業、歩道橋新設を単なる施設整備で終わらせるのではなく、整備後の積極的な活用、質の高い利用者サービスを提供できる維持管理運営の仕組みの検討も同時に進めているところです。

これらの整備は、遡ること2007（平成19）年2月、東京スカイツリー®建設地決定を受け、北十間川を中心とした江東内部河川の水辺を生かしたまちづくりと観光推進を狙いとし、墨田区が策定した「北十間川水辺活用構想」に端を発しています。墨田区は、この構想に基づき、2012（平成24）年4月、東京スカイツリー開業に合わせ、東京スカイツリーの麓の北十間川（東武橋から京成橋付近まで）を、おしなり公園として整備しました。

一方、2014（平成26）年2月、「新たな水辺整備のあり方検討会（事務局：東京都）」がとりまとめた「隅田川等における新たな水辺整備のあり方」において、取組展開の拠点として浅草エリアが位置付けられ、「浅草・東京スカイツリーを結ぶ、賑わいの水辺」を将来像としたことから、北十間川を中心とした開発の機運が高まりました。

これらを契機に、2016（平成28）年1月、地元5町会・4商店会、墨田区観光協会、墨田区、東武鉄道㈱、東京都、墨田区、芝浦工業大学志村教授で構成される「北十間川の水辺活用に向けた勉強会」（以下、「勉強会」）が発足し、水辺の活用や賑わい空間の創出等について議論を重ね、2016（平成28）年6月には「墨田区基本計画」の基本計画事業に位置付け、翌2017（平成29）年から各整備主体による施設整備に順次着手しました。そして2018（平成30）年3月には勉強会メンバーによる「北十間川水辺活用協議会」が発足し、河川法準則特例占用の地域合意を担うと共に、北十間川周辺エリアの公共空間等の利活用、継続的な賑わいの創出、そしてその波及などについて活発な議論が行なわれています。

東武鉄道さまからの情報提供

隅田川に歩道橋を新設します!

北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業にあわせ、東武鉄道の隅田川橋梁に新たに歩道橋を設置し、浅草と東京スカイツリータウンを結ぶ新たな東西軸を2020年春に整備します。

浅草寺～北十間川エリア～東京スカイツリータウンを最短で結節する動線を整備することで、既存の吾妻橋、言問橋、桜橋を活かした様々な観光回遊路を創出し、浅草・東京スカイツリーエリアの連携を一層強化します。

また、歩道橋新設にあわせて、既存の隅田川橋梁のカラーデザインを東京スカイツリーに採用している「スカイツリーホワイト」を基調とした色に変更し、昼景はもちろん、夜間のライトアップ時でもより広域なエリアでの一体感を醸成することを目指します。

浅草と東京スカイツリータウンをつなぐ高架下複合施設を開業します!!

東武スカイツリーライン 浅草駅・とうきょうスカイツリー駅間の鉄道高架下において、浅草と東京スカイツリータウンの2大観光拠点をつなぐ、商業施設と宿泊施設が一体となった高架下複合施設を２０２０年春に開業します。

本施設は、隅田公園と北十間川の親水テラスに囲まれた東武鉄道の高架下にあり、新設する隅田川橋梁歩道橋と合わせ浅草と東京スカイツリータウン間を楽しみながら歩いて回遊できる施設となります。

近隣にお住まいの方が旅するように過ごし、国内外の観光のお客さまが暮らすように滞在して欲しいという思いを表現した「Ｌｉｖｅ ｔｏ Ｔｒｉｐ」をコンセプトとし、周辺散策しながら、新しい下町の魅力を感じられる食事や買い物、体験ができる店舗を誘致します。

「北十間川周辺公共空間の活用方針（平成30年度）」発表

水と緑のサードプレイス～人が集いつながり文化を育む場

墨田区では、2019（平成30）年度、北十間川水辺活用協議会の賑わい創出部会と連携したワークショップを開催し、公園・河川などの公共空間の活用について地元住民、北十間川周辺に関わる区内団体・個人、民間企業、行政職員等、様々な立場の人々による活発な議論のもと、整備された公共空間を一体的に活用し賑わいを持続・向上させるための考え方を「北十間川周辺公共空間の活用方針」としてとりまとめ、公表しました。

活用方針のテーマである「水と緑のサードプレイス」は、自宅（ファーストプレイス）・職場（セカンドプレイス）とは異なる、心地よい「第三の居場所」を意味する「サードプレイス」という言葉を用い、地域への愛着を他者と共有できる、公園・水辺を中心とした居心地のよい場所を目指すことを表しています。これはワークショップの中で、年間3,000万人以上が訪れる浅草、東京スカイツリータウンに挟まれた北十間川周辺エリアに、同様の「観光地」を創出するのではなく、「地域の人々が集まり、会話が生まれ、つながる憩いの場、心地よい日常風景を創出することが必要だ」という地域の声に由来しています。この公共空間を核とした日常風景がさらなる人々の往来を呼び、賑わいを生み、新たな文化・価値を育み、それがやがて「すみだらしさ」となり、それが新たな観光資源にという想いを込めています。

活用方針は、ワークショップで出た意見から、「チャンス」、「伝統歴史」、「日常風景」、「連携」、「共創」、「波及」の6つのキーワードに合わせ構成しています。詳細は以下をご参照ください。

北十間川周辺公共空間の6つの活用方針

チャンス
誰もがそれぞれの過ごし方で
心地よくなれる「機会」「場」づくり

伝統歴史
すみだの来歴や積み重ねを活かして
さらなる魅力をつくりあげる活動づくり

日常風景
人が集まり、出会い、心地良く過ごす
風景自体が観光資源になる、
穏やかで活気ある日常風景づくり

連携
ここにしかない、公園、道路、高架下施設、
水辺を一体的に利用できる仕組づくり

共創
それぞれの立場を超え、産官学民が
地域の力と連携し、協働できる体制づくり

波及
公共空間を核とした地域に広がる
「まちづくり」のきっかけづくり

インタビュー：多様なステークホルダーが共に地域のためにできることを話し合う場のキーマン

北十間川水辺活用協議会　立岡幸夫 会長

来年春リニューアルされる隅田公園

Q北十間川水辺活用協議会の目的・内容について教えてください

地元町会・商店会、芝浦工業大学、墨田区観光協会、東武鉄道株式会社、東京都、墨田区をメンバーとする「北十間川水辺活用協議会」を、平成30年3月17日に発足し、北十間川（枕橋から東武橋付近まで）の水辺の良好な環境の保全と、恒常的な賑わいの創出により、水辺と周辺地域の活性化を図ることを目的として、継続的に検討しています。協議会には、「管理運営部会」と「賑わい創出部会」があり、それぞれの部会で活発な議論が行われています。

Q今年度の目標、展望について教えてください

北十間川水辺活用協議会が発足してから2年目に突入し、ハード面に関しては順調に進んでいると感じます。しかしハード完成後のソフト面では解決すべき課題が多々あります。地域が変わることとそこに地域の力が必要とされていることを、住民のみなさんへ周知することについて尽力したいと考えており、特にPRについてはより一層努力していく必要があると思っています。今回のタブロイド紙の発行によってより多くの人にこの地域のことを知っていただく機会ができることをうれしく思います。